

LGBTQの生徒に対する学校の支援 ～A市から見る現状～

専修大学文学部

○桶野円花, 野口武悟

lm201008@senshu-u.jp

takenori@isc.senshu-u.ac.jp

1

1. 研究背景

◎パートナーシップ制度交付件数

◎東京都

◎全国

1031組

5171組

令和5年12月31日時点

令和5年5月31日時点

2

◎文部科学省は今までに性同一性障害や性自認、性的指向に係る児童生徒に対する対応を示した文書を発出。

⇒学校での支援体制・医療機関との連携・児童生徒と保護者との関係などが記載

⇒実際に対応が十分に行われているかを調査

3

2. 研究目的・方法

◎研究目的

調査を通じてLGBTQの生徒に対する学校側の体制や、接する上で挙がる課題を明らかにし、解決策を考える。

◎研究方法

・了承の得られた東京都A市の公立中学校4校に質問用紙を配布

①学校としての取り組み

②教員が生徒と接する上で配慮していること

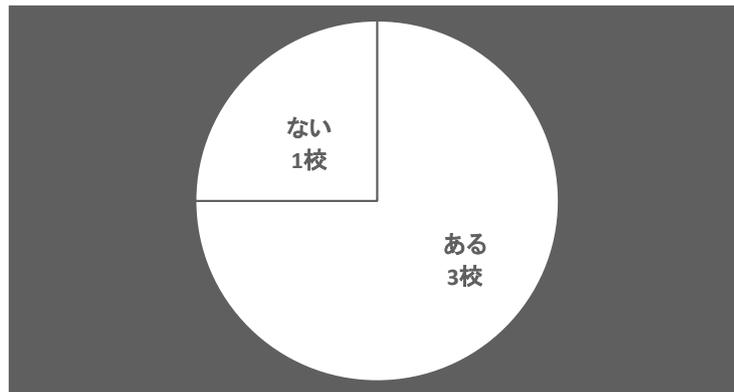
・実施時期:7月下旬～8月下旬

4

3. 研究結果

3.1 学校としての取り組み

◎生徒が相談しやすいよう取り組んでいることがある学校 (n=4)



5

◎取り組み例(3校)

- ・研修の実施
- ・学校が対応可能なことを形で示す

◎行っていない理由(1校)

- ・該当する生徒いない
- ⇒今後行う予定はある

6

◎トランスジェンダーの生徒に対する対応

- ・自認している性の制服に変更
 - ・多目的トイレの使用や保健室での着替え
 - ・肌が隠れる水着の着用
 - ・宿泊行事での個室対応や入浴時間の変更
- ⇒4校とも**対応可**

7

しかし・・・

「多目的トイレを設置したくても費用や設備面で設置できない」
といった声も。

⇒市などの協力が**必要**

8

◎生徒に多様性を教える機会

⇒4校とも有

〈具体例〉

- ・朝礼での講和
- ・LGBTQの学生による道徳の授業等

9

3.2 教員が生徒と接する上での配慮

◎当事者の生徒が持つ希望や悩みとして知っているもの (n=26)

- ・自認している性の制服着用→24人
- ・保健室での着替え、多目的トイレの使用→23人
- ・宿泊行事での部屋割り→19人
- ・LGBTQであることが原因のいじめ→16人

10

◎LGBTQの観点で気を付けていること(n=25)

- ・性別を理由に容姿や言動を指摘しない→22人
- ・過度に男女で分けない→17人
- ・今までの当たり前を押し付けない→21人
- ・意識していることはない→0人

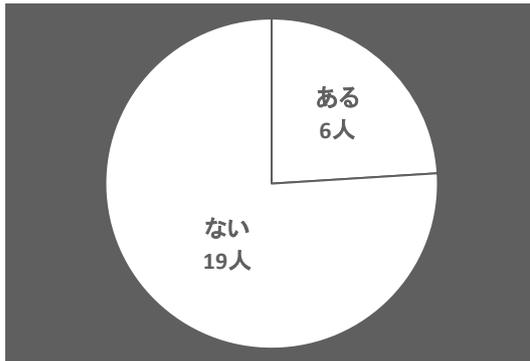
11

〈その他(個人的に配慮していること)〉

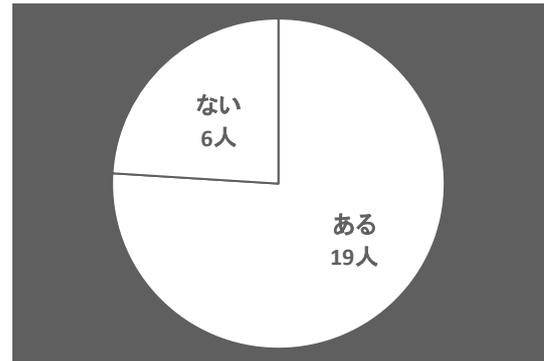
- ・呼称を「さん」で統一
- ・座席表を黒字に
- ・マイノリティへの過度な配慮
⇒マジョリティが不快にならないように

12

◎LGBTQに関する相談を生徒から
受けたことがある教員の人数(n=25)



◎当事者の生徒と接したことがある
教員の人数(n=25)



13

◎当事者の生徒と接した上で課題に感じたこと、改善すべきこと
〈意見〉

- ・呼称の統一
- ・制服の配慮
- ・トイレや更衣室をトランスジェンダーの生徒用に作る

14

◎当事者の生徒と接した上で課題に感じたこと、改善すべきこと
〈悩み〉

- ・周囲にバレない配慮
- ・我慢を強いてしまう
- ・生徒が悩んでいるかの判断

15

4. 考察

4.1 学校としての取り組みについて

◎学校全体としての取り組みの課題

- ・当事者の生徒の有無に関わらず、**生徒が相談しやすい環境をつくる**
- ・男子の制服を**数種類**用意
- ・学校と生徒の要望が**一致しているか**把握

16

4.2 教員が生徒と接する上での配慮について

◎教職員の意識

・制服の対応、更衣室やトイレ使用時の配慮について把握

→学校の対応が教員にも理解されている

・宿泊行事での配慮や、いじめにつながることの把握

→すぐに対応が取れない、相談しにくいという問題が発生

→当事者が持つ悩みを理解し対策していくことが必要

17

・教員の意見から

↳当事者への配慮のみは×

↳非当事者への配慮が必要

→双方が理解し、配慮しあえるように考え対応していくことも教員に求められる。

18

-
- ・当事者の生徒から相談を受けた教員の6人中3人、保健体育の教員
→着替えなど、悩みに多く直面
 - ・また、6人中3人は若手教員(20代1人、30代2人)
→生徒と近い年齢
→相談しやすい?
 - ・教員の悩み・・・
当事者の生徒と、周囲の教員・生徒との関係
→周囲の生徒や教員の理解を得られるよう教育や研修が大事

19

5. 結論

- ・費用や設備の関係で配慮ができないことも
→LGBTQについて理解している＝配慮ができるではない
- ・研修は重要
- ・当事者と非当事者の双方が理解しあえるよう教育していくことが大切

20